

達成度調査等及び児童の学習状況から見た成果と課題			○成果	▲課題
	第4学年	第5学年	第6学年	
国語	○言語・情報・言語文化の正答率が高い。 ▲記述式、特に書くこと、読むことについての正答率が低い。	○基礎よりも応用や記述問題、思考・判断・表現に関する問題の値が高い。 ▲漢字の読み書きが未定着。	○漢字の読み、言語文化の正答率が高い。 ▲説明文の読み取りができていない。C, D層の割合が30%を超えている。	
社会	○地理的環境と人々の生活の正答率が区の平均を上回っている。 ▲記述式の課題に対する正答率が低い。	○災害時の対応を記述するなど、生活と結び付けて考えられている。 ▲都道府県の位置が未定着である。	○情報社会や記述式の問題に対する正答率が区の平均を上回っている。 ▲工業生産の内容が定着していない。	
算数	○全体的に高い傾向にあり、全国や区の平均を上回っている。 ▲図形の正答率が他に比べて低い。	○区の平均とほぼ同数値であった。 ▲小数の割り算、文章題が大きくポイントを下回った。	○数と計算、速さの正答率が区の平均を上回っている。 ▲割合や百分率の内容が定着していない。	
理科	○全体的に高い傾向にあり、全国や区の平均を上回っている。 ▲思考・判断・表現が他に比べて低い。	○全体的に高い傾向にあり、全国や区の平均を上回っている。 ▲知識・技能が他に比べて低い。	○どの領域も基礎応用共に区の平均を上回っている。 ▲天気、振り子の正答率がやや低い。	
授業改善の方針				
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の読み書きに課題が見られる。前学年までの漢字も習得できるよう反復して練習に取り組みさせる。また、音読に取り組みせたり、日常的に漢字を使って文章を書かせたりするなどして定着を図る。</li> <li>考えをノートに書く等の活動を引き続き充実させ、書き表すことに抵抗なく取り組めるようにする。</li> <li>筆者の伝えたいことを的確につかめるよう、児童主体の話し合い活動を行い、段落相互の関係を捉えさせる。</li> </ul>			
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>地理的な分野の定着に課題が見られた。第3学年では千代田区の位置を、第4学年では都道府県の位置を、フラッシュカード等を使って児童が興味をもって学習に臨める工夫をする。また、地図帳も積極的に活用する。</li> <li>資料の読み取りが課題であったため、より多くの資料にふれさせる。第3学年で資料の読み取り方を丁寧に指導し、発達段階に合わせて資料の扱いに慣れさせる。ICTを活用することで資料の精選も図る。</li> </ul>			
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>図形やデータの活用の定着に向け、児童同士が数学的な見方・考え方を広げられるように問題解決の時間を設ける。自分の考えを図や式、言葉などでノートにまとめて相手に伝え、友達の考えを聞いて共通点や相違点を見つけて解決に導く活動を充実させる。また、コース別授業で個に応じた活動を組み立てる。</li> </ul>			
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験、観察で身に付けた考え方をもとに、語句や用語を正確に使用できるように指導する。児童の知識や経験からの話し合いでは表記のゆれが生まれることから、授業で確実なまとめ、復習を行う。</li> <li>理科支援員の協力を得て各学年の事象提示を効果的に行うようにする。事象から問題を見出し、解決へ向かう学習能力を引き続き育てる。</li> </ul>			
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>客観的な根拠を基に友達と交流し、対話しながら自分なりの考えを持ったり音楽に対する価値意識を構築したりしていく過程に重点を置く。</li> <li>我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わい、愛着をもつことができるような題材の学習内容や学習活動ならびに教師の働きかけなどを工夫する。</li> </ul>			
図工	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの児童が自己決定し自ら表現する力が身に付いてきた。既習事項や他教科で学んだ内容を活用する力をより伸ばすため、各題材の中で発想を多方面に広げたり、多様な技能の応用を意識付けたりする学習内容を取り入れる。</li> <li>適宜 ICT を活用した相互鑑賞の活動を取り入れ、自他理解の機会を増やし、自分の考えをさらに深める手だてとする。</li> </ul>			
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報を収集したり、観察・実験・実習等の結果や考察したことをまとめたりする際に、タブレットを積極的に活用し、児童の思考の過程や結果を可視化する。</li> <li>調理実習をはじめ、実践的・体験的な活動を重視し、知識及び技能の習得を確かなものにする。</li> </ul>			
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの学年で上体起こし、長座体前屈、50m走において全国の平均より下回っている結果が見られた。そのため、「体づくり運動領域」「ゲーム領域」「ボール運動領域」において、体の感覚を養う運動(遊び)や多様な動きを取り入れる。また、「陸上運動系領域」で、体全体を使って、高く跳んだり、遠くへ跳んだりする場を工夫する。準備運動の代わりにコーディネーショントレーニングを積極的に取り入れ、様々な体の動かし方や使い方を身に付ける。</li> </ul>			
外国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>聞くこと、話すことを中心に言語活動を行い、児童のコミュニケーション能力が向上してきた。書くことにおいては、ドリル形式とならないように、ワークシート等を活用し十分に慣れ親しんだ表現を段階的に書き写すようにする。ALT とのチームティーチング、ICT の活用、グループ活動等を行い、個別最適かつ協働的な学びを実践する。</li> </ul>			